

業績説明会資料

経営の現況について

2021年5月26日

 **日油** 株式会社

説明内容

 2022中期経営計画

 2022中期経営計画の進捗状況



2022中期経営計画 (2020年度～2022年度)

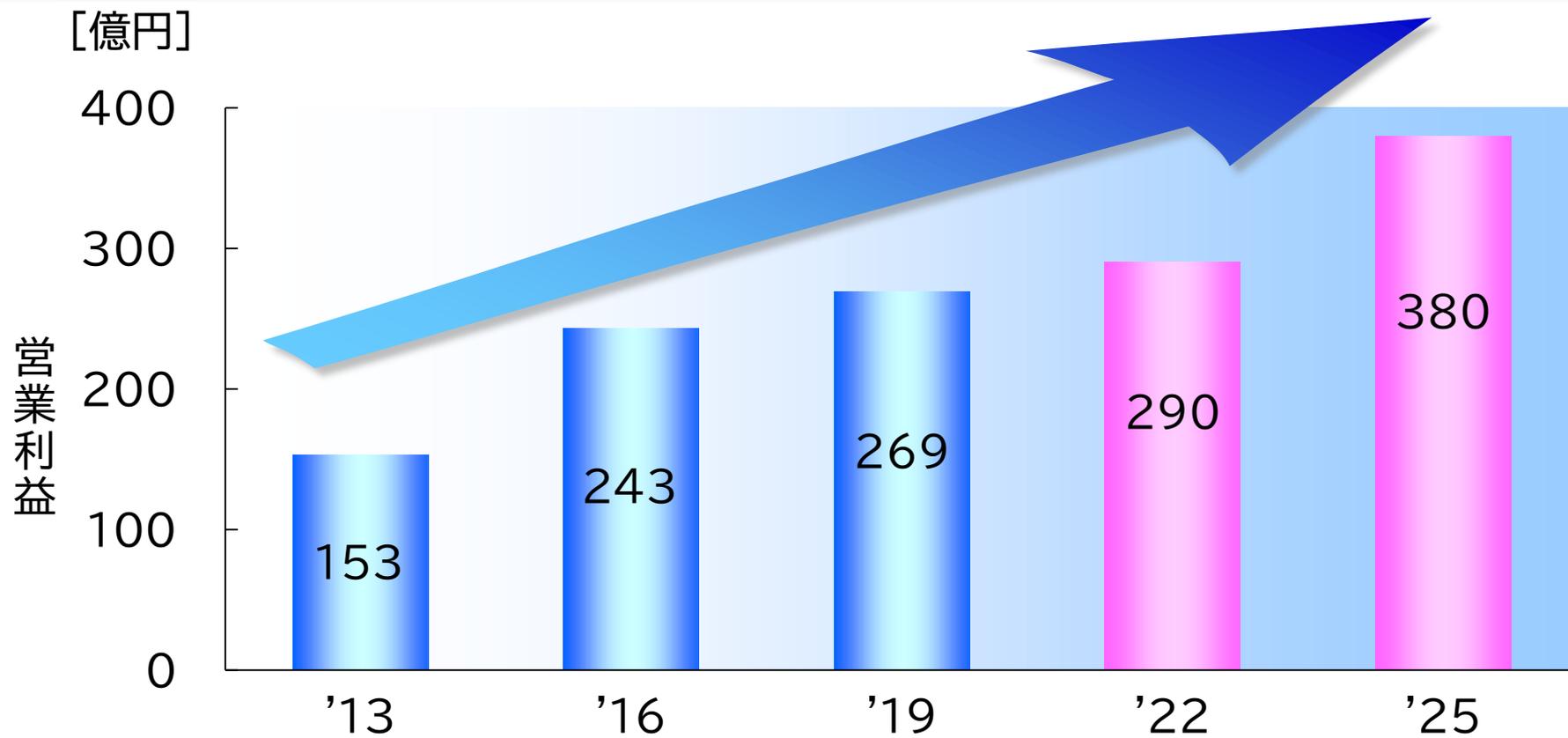
「収益認識に関する会計基準」等の適用

- ・2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用。
- ・当該会計基準等適用前の売上高は、括弧内に記載。
- ・当該会計基準等適用前の営業利益は、影響が軽微のため記載を省略。

2025年 ありたい姿に向けて

ビジョン(ありたい姿)

豊かで持続可能な社会実現のため、「ライフ・ヘルスケア」、「電子・情報」、「環境・エネルギー」の3分野において、化学の力で新たな価値を協創する企業グループ



NOF VISION 2025

2022中計・Stage I

基盤強化ステージ

- ・成長分野への積極投資
- ・低採算事業の収益基盤強化

2025中計・Stage II

収益拡大ステージ

- ・収益基盤の確立

持続的成長

2022年度

営業利益	営業利益率
290億円	15%以上

2025年度

営業利益	営業利益率
380億円	15%以上

2022中計の基本方針

挑戦と協創

重点課題

1

成長市場への事業拡大

2

新製品・新技術開発の加速

3

社内外との連携強化

4

生産性の向上

5

CSR活動の推進



2022中期経営計画の進捗状況

2022中計・Stage I

基盤強化にむけた進捗

◆成長分野への積極投資

- ・機能化学品、ライフサイエンスセグメントへの生産能力増強のための設備投資
- ・先端医薬医療関連素材の事業化のための新規事業開発室の設置

◆低採算事業の収益基盤強化

- ・汎用品から高機能・高付加価値製品への移行の加速
- ・製品の統廃合

2021年度の事業環境

日油グループを取り巻く想定事業環境

- ◆新型コロナウイルス感染症に対する経済対策とワクチンの普及
→経済水準の回復、需要の変化
- ◆米中の対立長期化によるサプライチェーンの不安定化
- ◆原燃料価格の上昇

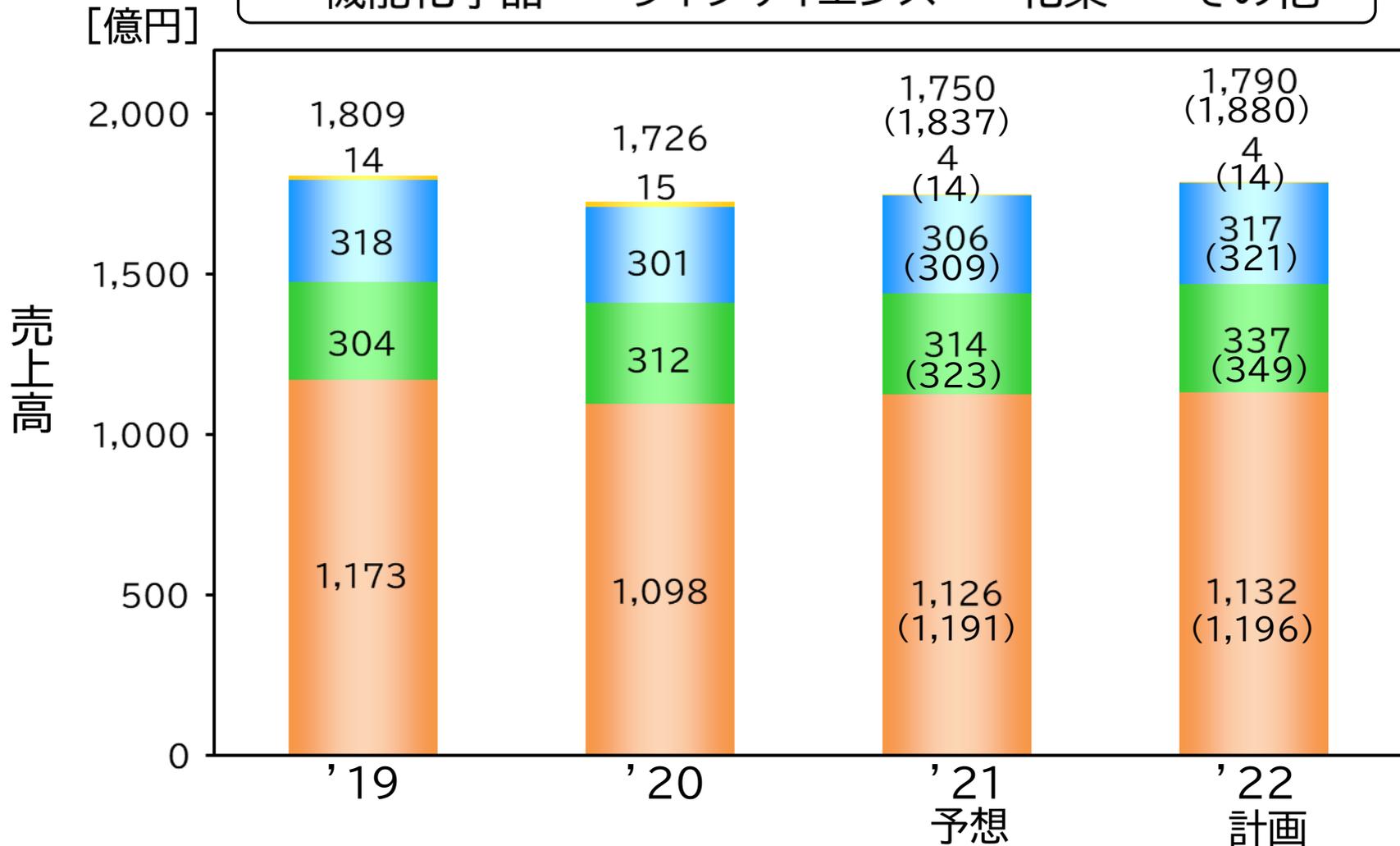
		2022中計 (想定)	2020年度 (実績)	2021年度 (想定)
パーム油 (FOBマレーシア)	US\$/MT	660	617	820
国産ナフサ	円/KL	35,000	31,300	44,000
為替レート	円/US\$	105	106	105
	円/EUR	120	123	125

コロナ禍による主な影響

セグメント	製品群	2020年度の状況	2021年度の予測
機能化学品	特殊防錆処理剤 ・各種添加剤	自動車の減産及び一部稼働停止による需要減（20年度後半は回復）	コロナ影響の緩和 需要の回復継続
	冷凍機用 潤滑基材	中国を中心としたエアコン向け 需要減（20年度後半は回復）	
	化粧品原料	インバウンド需要の消失、外出自粛 による需要減（20年度後半は回復）	
	トナー用添加剤	在宅勤務が普及し、ペーパーレス化で トナー需要減（20年度後半は回復）	
ライフ サイエンス	生体適合性 素材	衛生意識の高まりによる MPC関連製品の需要増	需要の落ち着き
	医薬用 製剤原料	医薬品原料の需要増	需要の継続
化薬	機能製品 (建設資材用)	建設資材の需要減	需要の回復

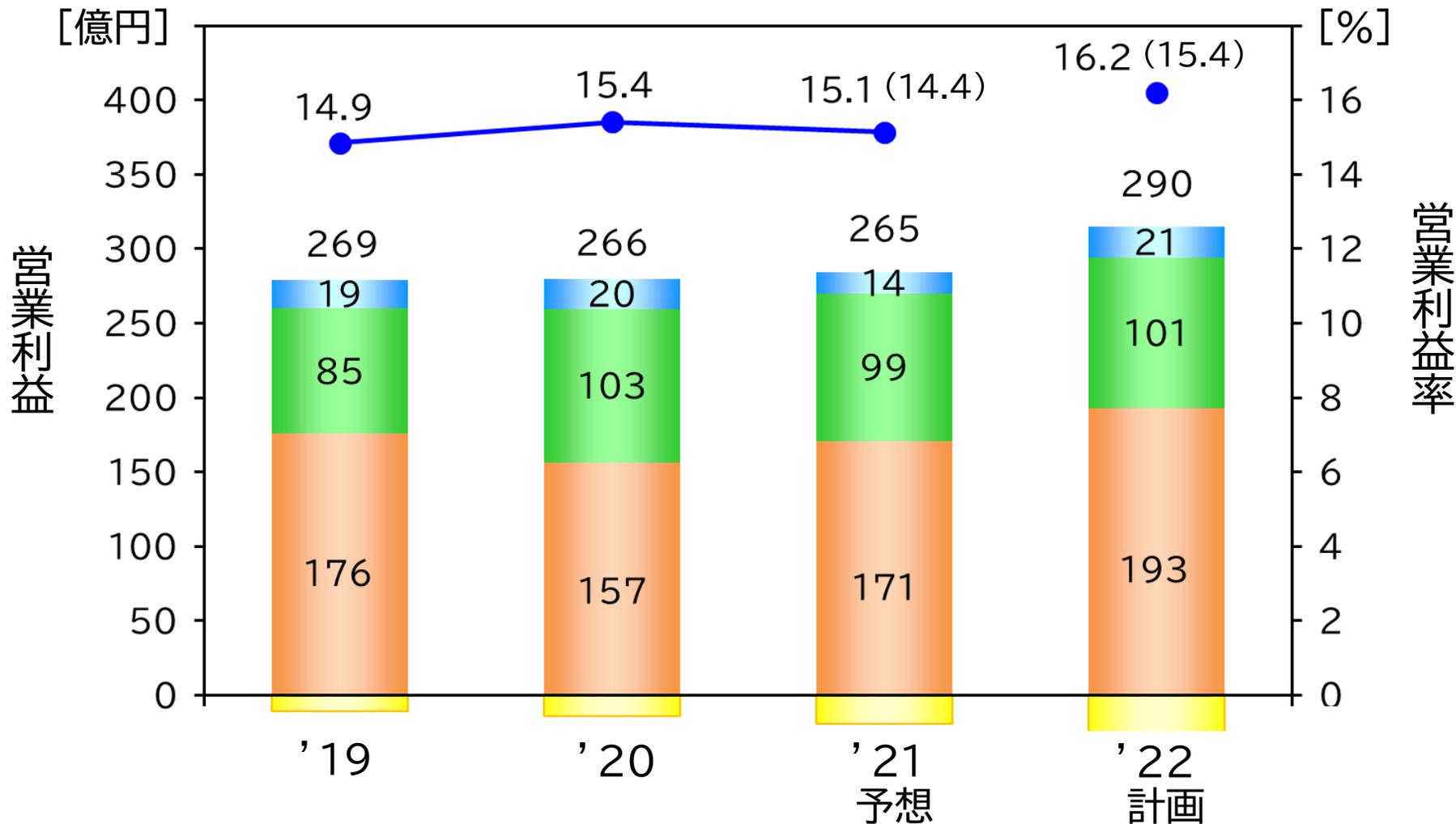
連結売上高の推移

■ 機能化学品 ■ ライフサイエンス ■ 化薬 ■ その他



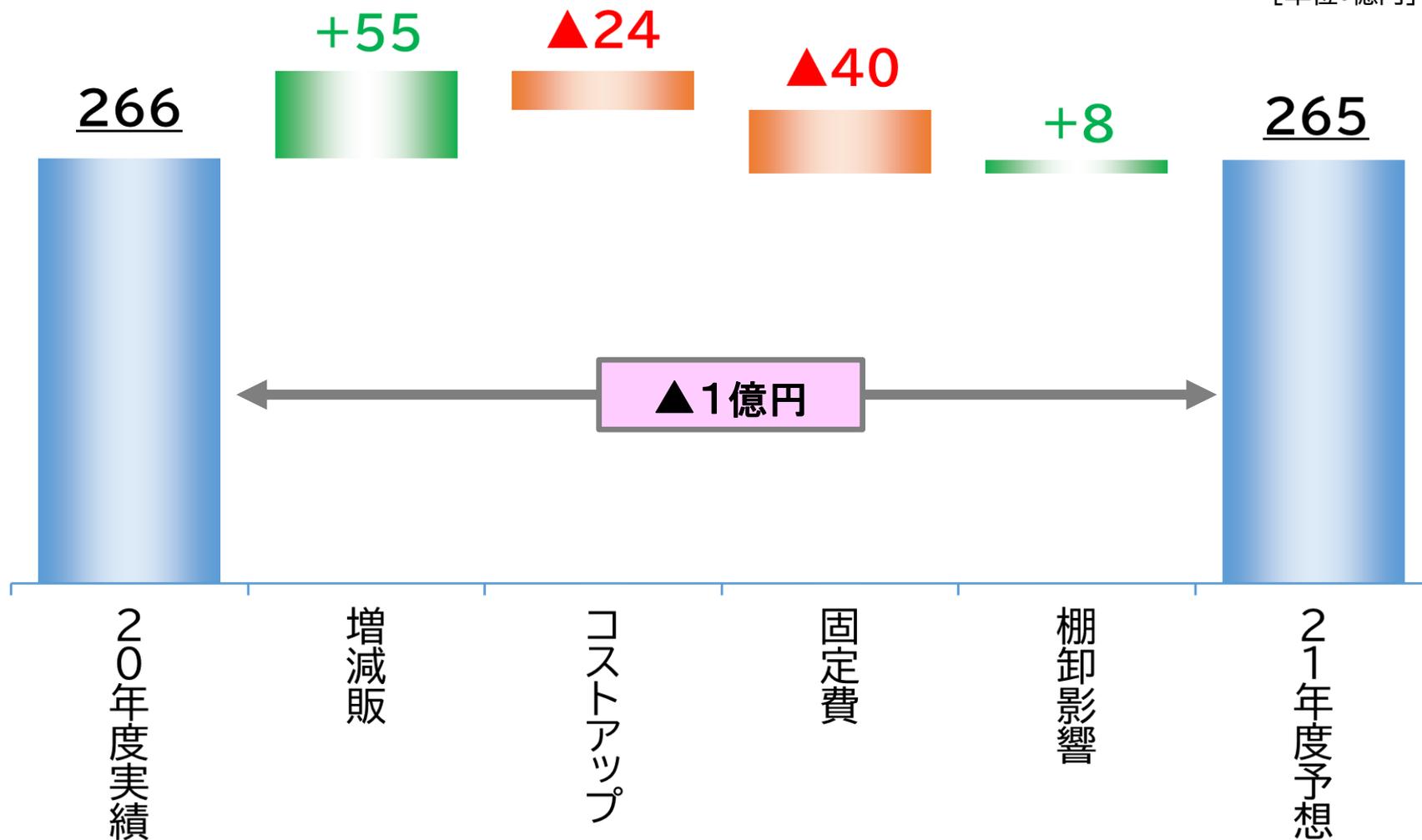
連結営業利益・営業利益率の推移

機能化学品 ライフサイエンス 化薬 その他 営業利益率

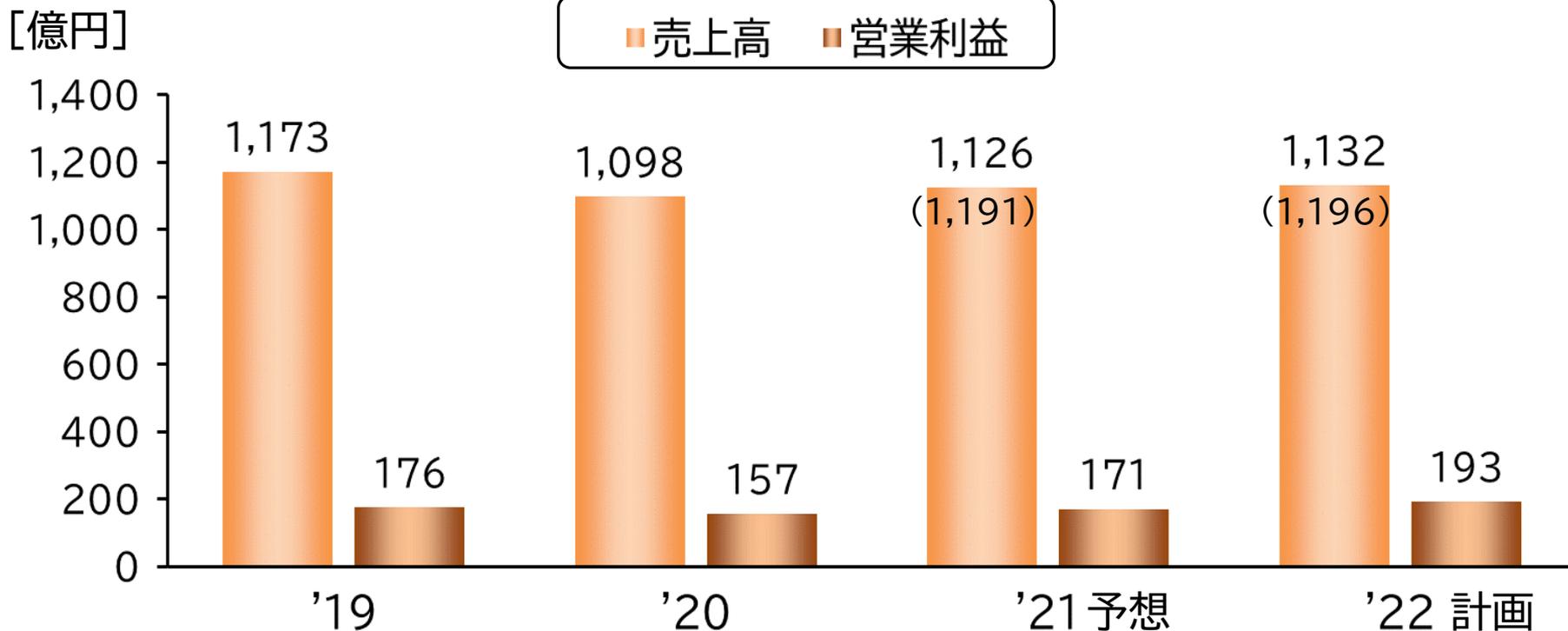


連結営業利益の差異内訳(対前年度)

[単位:億円]



セグメント業績推移(機能化学品セグメント)

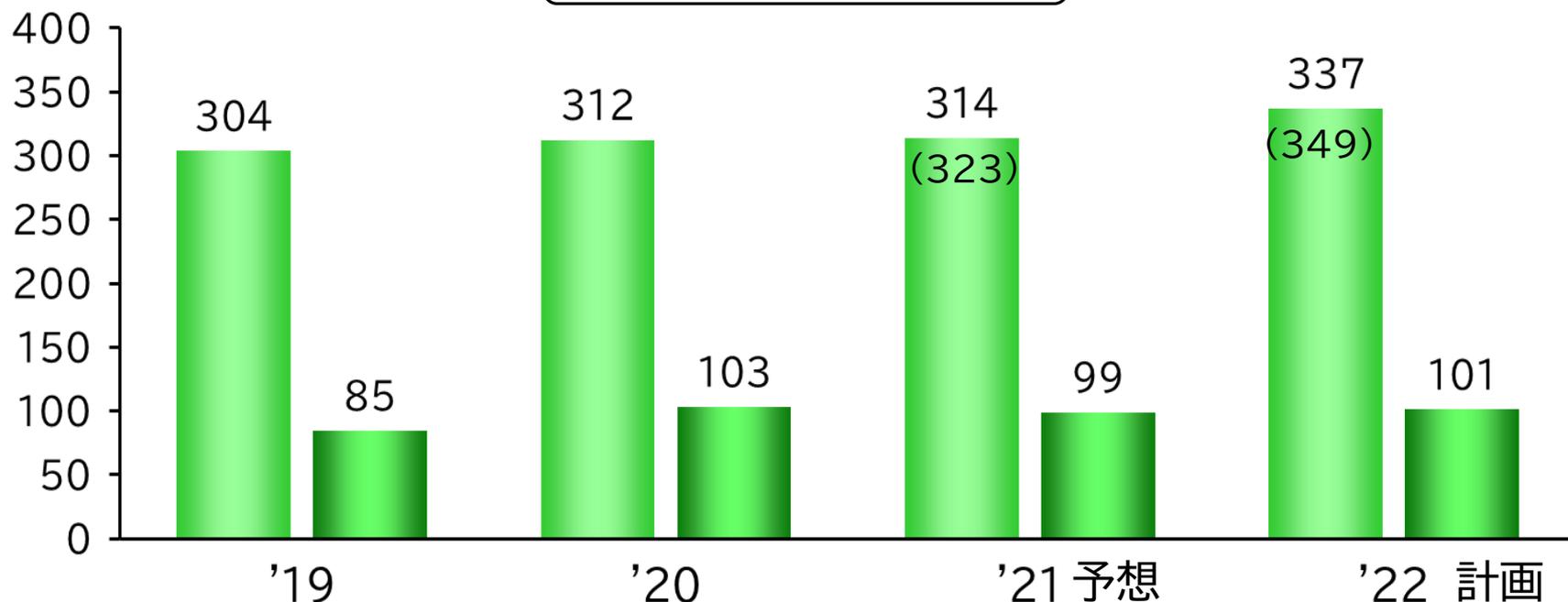


年度	セグメントの状況
2020年度	コロナ禍の影響を大きく受けたが、20年度後半は自動車向け、化粧品原料向けや冷凍機用潤滑基材を中心に回復。
2021年度	原燃料高の影響を受けるが、20年度からの需要回復は継続。

セグメント業績推移(ライフサイエンスセグメント)

[億円]

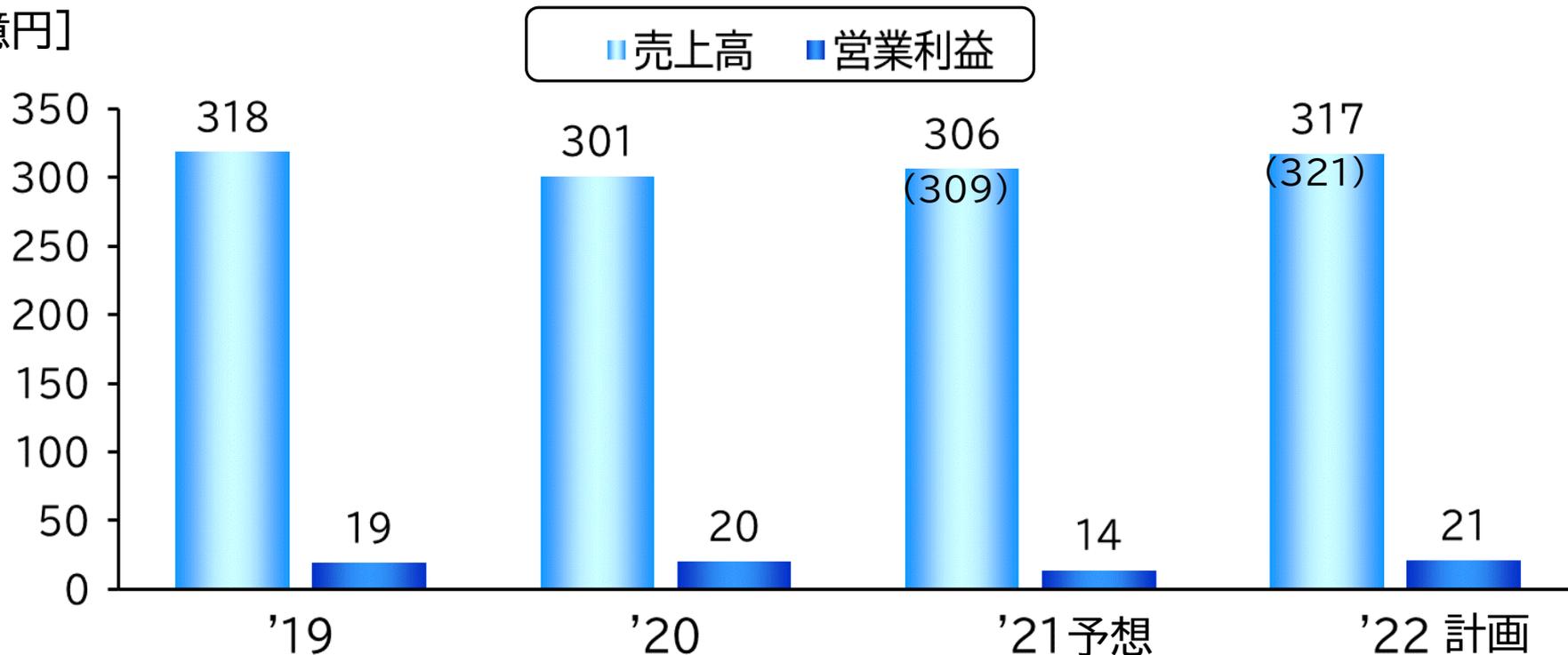
■ 売上高 ■ 営業利益



年度	セグメントの状況
2020年度	コロナ禍において、衛生意識の高まりによる消毒剤の需要拡大、医薬品開発の活発化により大きく伸長。
2021年度	積極的な設備投資と人員増強。食用油脂原料の価格高騰。

セグメント業績推移(化薬セグメント)

[億円]



年度	セグメントの状況
2020年度	コロナ禍の影響による建設資材の需要減少などと、宇宙分野でのロケット打ち上げ計画の遅延による減収。品種構成により増益。
2021年度	防衛省の予算減と、ロケット打ち上げ計画の遅延により減益。

セグメント連結営業利益の差異内訳(対前年度)

- ◆「増減販」:高機能・高付加価値製品の拡販
- ◆「コストアップ、固定費」:原燃料価格の上昇、減価償却費の増加

[単位:億円]

	20年度 実績	増減要因					計	21年度 予想
		増減販	コスト アップ	固定費	棚卸 影響			
機能化学品	157	+38	▲18	▲14	+8	+14	171	
ライフサイエンス	103	+15	▲6	▲16	+3	▲4	99	
化薬	20	+0	▲0	▲3	▲3	▲6	14	
その他・調整	▲14	+1	-	▲6	-	▲5	▲19	
合計	266	+55	▲24	▲40	+8	▲1	265	

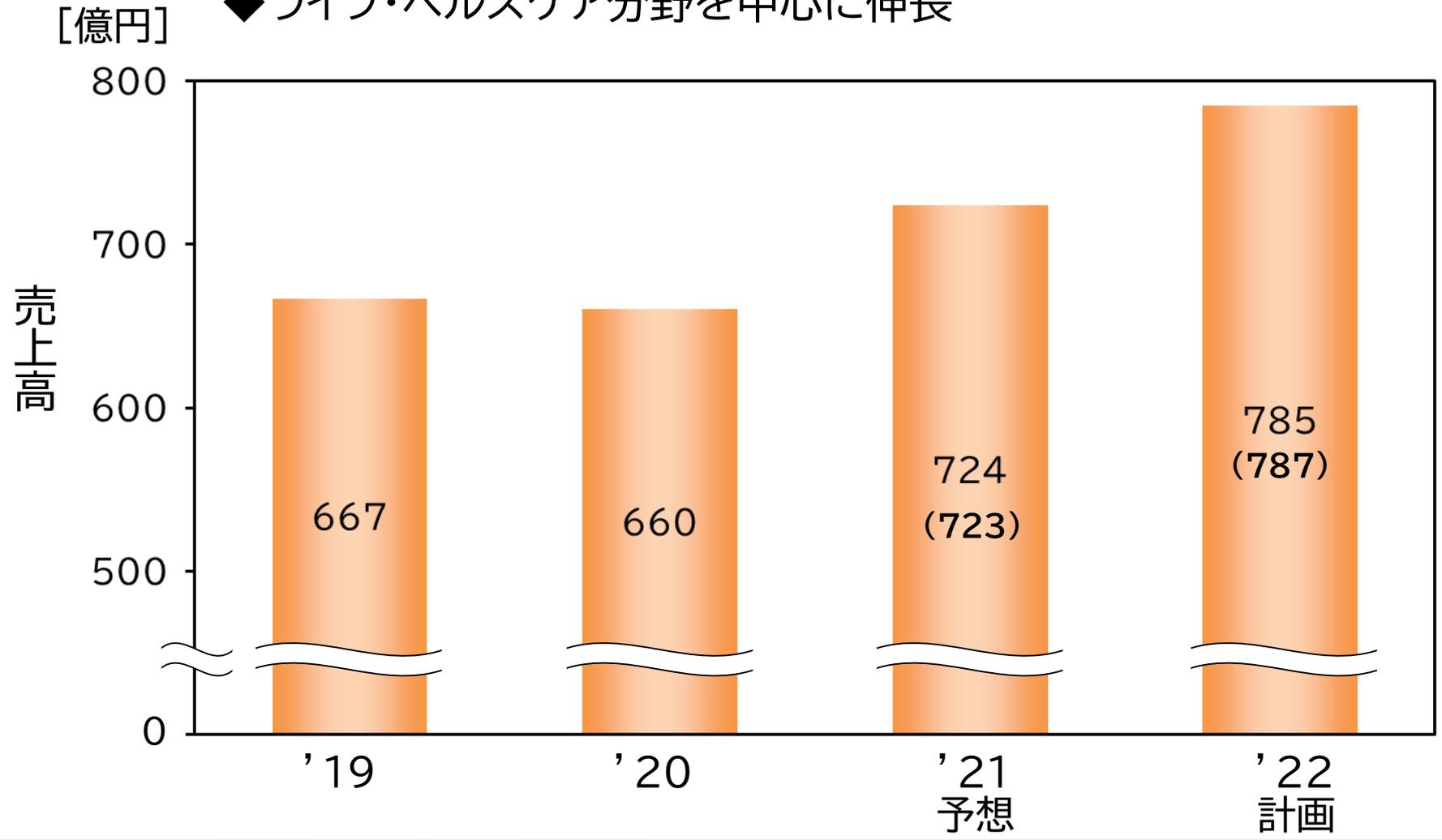
2022中計の重点課題

重点課題

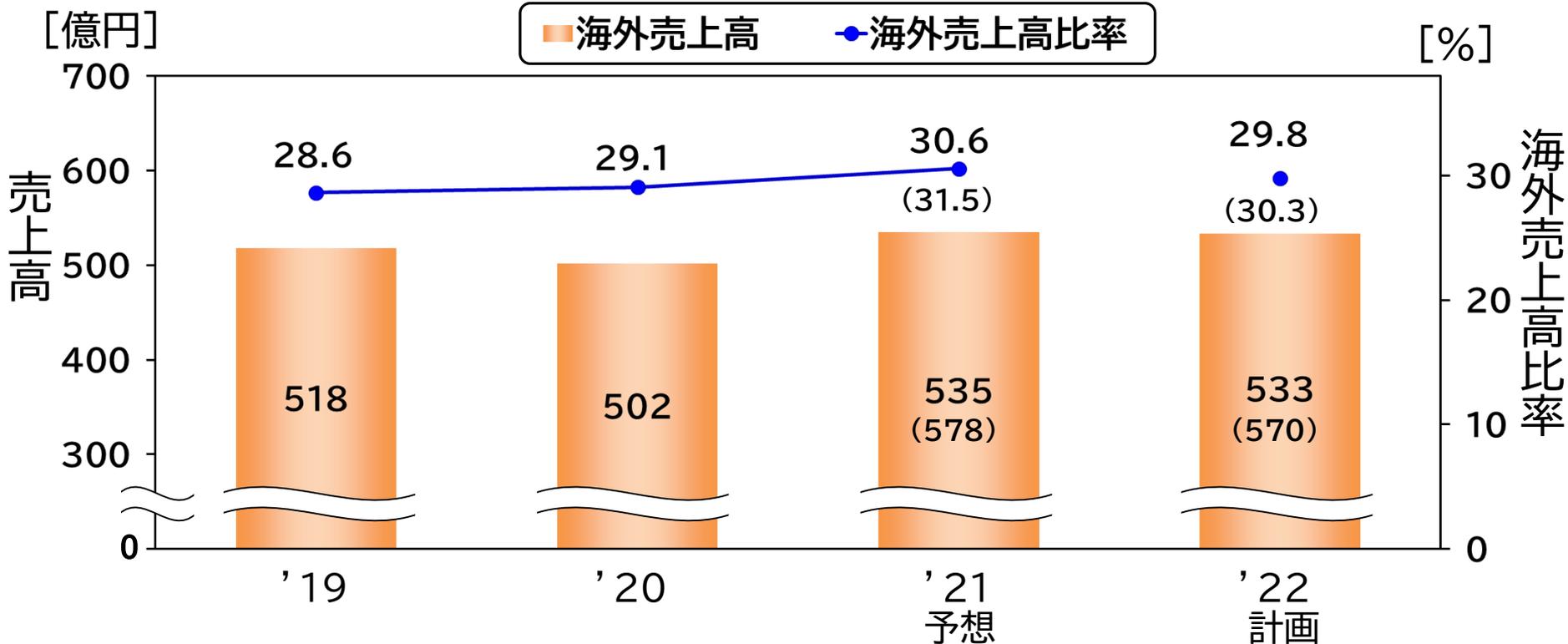
- 1 成長市場への事業拡大
- 2 新製品・新技術開発の加速
- 3 社内外との連携強化
- 4 生産性の向上
- 5 CSR活動の推進

高機能・高付加価値製品の売上高

◆ライフ・ヘルスケア分野を中心に伸長



海外売上高・売上高比率



	2022中計 2022年度 計画	2020年度 実績	2021年度 予想
海外営業要員 (対2019年度)	+19%	+3%	+11%
海外売上高 (対2019年度)	+10%以上	-3%	+3%(+12%)

2. 新製品・新技術開発の加速

3. 社内外との連携強化

新製品・新技術開発の加速

重点施策	2022中計	2020年度 (実績)	2021年度 (予定)
研究 テーマ数の 拡大	研究本部新規事業 開発室による 新規事業の育成加速	研究本部新規事業 開発室の設置	新規事業開発室の 研究テーマ拡大
	iCONM等を活用した 新たな研究テーマ探索	iCONMに 研究拠点を開設	GMP対応少量 生産設備の導入
	MIを活用した 新素材の探索と 新処方の開発	対象テーマの抽出、 概念実証実施	外部MIシステムの 活用による検証、 新素材や新処方への 可能性評価
産官学 連携の 推進	オープンラボや 国家プロジェクトの活用 オープンイノベーションへ の積極的な参画	大学や公的研究機関 との共同研究 ※物質・材料研究機構 「多機能接着材料」 千葉大学 「脂質ナノカプセル用素材」	大学や公的研究機関 との共同研究 大学研究者を対象に 社外テーマを公募

iCONM:公益財団法人 川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター MI:マテリアルズ・インフォマティクス

セグメント研究開発費

	2022中計 (計画・累計)	2020年度 (実績)	2021年度 (予定)
機能化学品	90億円	28億円	27億円
ライフサイエンス	44億円	13億円	16億円
化薬	44億円	14億円	14億円
共通(コーポレート)	20億円	3億円	7億円
グループ合計	198億円	58億円	64億円

生産性の向上

①生産能力の増強と収益力強化

◆高機能・高付加価値製品の需要に対する設備増強

	2022中計 (計画・累計)	2020年度 (実績)	2021年度 (予定)
設備投資 ※	257億円	84億円	91億円
減価償却費	178億円	56億円	60億円

※ 検収ベース

生産性の向上

②デジタル化の推進

項目	例
研究開発力の強化	MIを活用した新製品開発 特許情報の解析
マーケティングの強化	営業支援ツールの有効活用
生産システムの改善	生産計画へのRPAの活用 工場管理文書のデジタル化

CSR活動の推進

①豊かで持続可能な社会実現のための新たな価値の提供

- ・事業活動を通じたイノベーションの実現
- ・目指す3分野での高機能・高付加価値製品の供給

②事業基盤の強化

- ・働きやすい職場づくりと人材の活躍支援
- ・CSR調達とBCP整備によるレジリエンス向上

③レスポンシブル・ケア活動の推進

- ・化学物質の管理と労働安全の徹底
- ・地球温暖化対応に向けた施策の検討

社会環境の変化に対応した注力製品

	ライフ・ヘルスケア	環境・エネルギー	電子・情報
需要の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生意識の高まり ・ワクチンなどの医薬品開発の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティへの意識の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・5G市場拡大
注力製品	<ul style="list-style-type: none"> ・生体適合性素材 (LIPIDURE®) ・DDS医薬用製剤原料 (SUNBRIGHT® シリーズ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・脂肪酸誘導体 (冷凍機用潤滑基材) ・生分解性作動油 ・特殊防錆処理剤 	<ul style="list-style-type: none"> ・EO・PO誘導体 (セラミックス用分散剤)

※ EO・PO:エチレンオキシド・プロピレンオキシド

地球温暖化対策について

当社グループの現行目標

2030年度のCO₂排出量/売上高原単位を30%削減(2013年度比)

我が国の方向性

2020年10月:2050年にカーボンニュートラルを目指す

2021年 4月:2030年の温暖化ガス排出量を46%削減(2013年度比)

国の目標変更に伴う当社グループの対応

必要な施策や技術を棚卸・精査して、2022中計期間中に以下を明確化

- ・国の方針に準じた目標の再設定
- ・2030年度までのロードマップの作成

2022中計 計画値

[単位:億円、%]

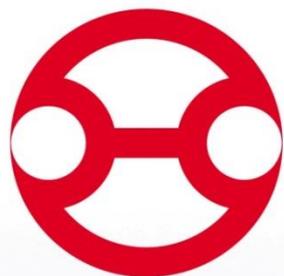
	2020年度 実績	2021年度 予想	2022年度 計画	2025年度 計画
売上高	1,726	1,750 (1,837)	1,790 (1,880)	2,100 (2,200)
営業利益	266	265	290	380
売上高営業利益率	15.4	15.1 (14.4)	15 以上	15 以上
ROA ※1	11.4	10以上	10 以上	—
ROE ※2	12.2	10以上	10 以上	—

※1 ROA:総資産経常利益率

※2 ROE:自己資本当期純利益率

バイオから宇宙まで

From the Biosphere to Outer Space



日油

NOF CORPORATION



- ・本資料はあくまで弊社をより深く理解いただくための資料であって、本資料による投資等何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づいて弊社の判断により作成されておりますが、実際の業績が様々な要素により計画とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。
- ・本資料のご利用に関しましては、ご自身の判断と責任にてお願いいたします。
- ・本資料の金額表示は、億円未満を四捨五入しております。

お問い合わせ先：日油株式会社 経理部 IR室 森知明
住所：東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号
電話：03-5424-6651
FAX：03-5424-1482
ホームページ：http://www.nof.co.jp

SUNBRIGHT, LIPIDUREは、日油株式会社の登録商標です。